

シジュウカラガン（カモ科） 全長55～67センチ

3月2日、この日は強風が吹きつけるなど、探鳥日和とは言い難い天候であった。

しかし、野鳥大好き仲間が悪天候など気にも留めずに、貴重種ハクガンとシジュウカラガンを目指して大潟村へと向かった。

見渡す限りの広い田んぼは、積雪ゼロセンチ。大仙市はまだ90センチもあり、同じ秋田県内でもこんなに違いがあるのかと恨めしく思った。大潟村到着後、まもなくシジュウカラガンの群れが見つかった。農道の両側に約200羽が落穂などの餌を漁っていた。群れから100m以上離れ眺めていたが、やはり警戒しているようだ。飛び去ることは無かったが、餌を食べながら少しずつ離れていった。これ以上刺激を与えない様に動かずにじっくりと観察。



頭をもたげている2羽は見張り役のようだ。

かつては東京湾などで毎冬見られていたらしいが、1930年代以降は記録が途絶えていた。

1970年代以降は伊豆沼などにマガンの群れに混じって1~2羽が不定期に飛来するだけであった。1983年に八木山動物公園が米国から9羽を譲り受けて繁殖事業を始め、1995年にロシア科学アカデミーと共同で千島列島のエカルマ島で放鳥を開始。

国際的な保護活動の実施により個体数が増加し、2014年から日本には1000羽単位での飛来が復活した。絶滅危惧種の人為的回復の事例のひとつと評価されている。



一斉に首を上げ警戒中。



2015年3月10日。大仙市大浦沼近くに37羽が飛来した。

この様な地道な努力があっこそ、我々も容易に観察出来たことでしょう。多くの関係者に感謝しながら大湊村を後にしました。



2015年3月10日。初めての観察であったが、それ以降は一度も見えていません。



2015年3月10日。足環の付いた個体が見つかった。ロシアで装着されたのでしょうか。